

豊川地域の

道祖神

と

どんど焼き



はじめに

豊川地域コミュニティ運営協議会 第三分科会では、豊川地域の文化・歴史について、各地域の行事や、地域内各地区の取り組みを通じて紹介し、地域内の情報共有していくことにより、豊川地域のコミュニティを形成していく事を目的に活動をしております。

平成29年度は、地区ごとに行われている共通の話題として、「道祖神とどんど焼き」の歴史や、文化に関して調査を行いました。

豊川地域の道祖神・どんど焼きの由来などを学びつつ、豊川地域の各地区での道祖神のお祭り・どんど焼きを、豊川全体の共通文化・歴史として共有できるようにするため、本誌を発行するに至りました。

親子で、又はご家族でもご一読頂き、道祖神・どんど焼きの歴史・文化を再確認して頂き、日々の生活の中で、例えばお散歩のときなど、道祖神めぐりや、道祖神探しをして頂いたり、今後の地域イベントに楽しくご参加いただきまして、地域の絆を深める一助にして頂ければ幸いです。

豊川地域コミュニティ運営協議会
第三分科会長 岩崎洋一

豊川の道祖神

豊川地域を歩いていると、路傍にひっそりと建っている様々な形の石塔などを見かけます。

これらの多くは、先祖代々、地域の世話人が守り続け、民族信仰の対象となっているもので、今も尚、地域の方々の手によって、大切に祀られています。

道祖神は、その代表的なもので、小田原市内各地で道祖神祭りやどんど焼きなどの地域行事が行われています。

「道祖神」は、「さえのかみ」「さいのかみ」と呼ばれ、道路の神様として通行人や旅人を守り、邪神が入りくるのを防塞（さえぎり、ふせぐ）する道路神です。

また、「さへのかみ」の「さえ」は「塞」すなわち防塞の意味だといわれています。

或いは「さ」「へ」の神で、「さ」は接頭語で「へ」は性器を意味する語だともいわれています。道祖神は、本来的に性神としての性格を持っていたという説があります。

久野神山の道祖神には「幸神、猿田彦命、鈿女（うずめ）命」とあり、身の丈七尺で鼻が異様に高い男神の猿田彦命は天狗の本家となり、男性の象徴とされています。

鈿女命は鼻の低いオカメの本家といわれ、女性の象徴とされました。

この両名が、天孫邇々杵命（ににぎのみこと）の天孫降臨の際、日向国高千穂の櫛触峰（くしふるみね、霧島山）まで案内したことが神話に残されており、この天孫降臨の先導役（道案内）をしたことによって、道の守り神の性格を生んだものであるといえます。

地域内の道祖神の中には男女の形態をした双体像が彫られているものがあるのも、こうした由来によるところです。

このことから、道路の神様として通行人や旅人を守り、その他、邪神が入りくるのを防塞（さえぎり、ふせぐ）する道路神のみならず、厄払い、悪魔払い、縁結びや、子宝の神、子孫繁栄の神としても信仰されています。

また、道祖神は、子どもとの関係が深く、子ども主体で、どんど小屋を建て、お団子をやき、道祖神のお世話役の地域の大人に見守られながら、行事が行われるものでした。したがって、子どもの守護神的な性格も有しています。

小田原地方では、道祖神さんは子どものいう事なら何でも聞いてくれ、願い事も叶えてくれるので、各地域で悪魔払いや、病氣平穩の祈願が多くおこなわれていました。

どんど小屋

お仮屋（オカリヤ）、道祖神小屋とも呼ばれています。現在では、簡略化されて道祖神塔を覆う程度のものが普通で作らない所が多いです。往時には道祖神行事の中でも、お仮屋の存在は相当大きなものであり、年輩者の子供の頃の思い出として記憶に残っているものに、多くの人はお仮屋での事を挙げています。

暮れの二十五日頃から始まる道祖神の「太鼓たたき」も、それまでは寒い吹きさらしの中であったものが、年改まった一月四日から七日頃の間にかけてお仮屋が作られると、一月十三日夜まで、子供達はその中で火を燃やし、餅を焼き、太鼓をたたいてすごすようになります。

市内どこの地域でも、お仮屋は二間（3.6m）×三間（5.6m）位が普通で、主材料は藁と丸太、青竹であり、世話人と子供達によって調達され、これに道祖神にあげられた正月のお飾りや、ダルマ、お札、古い武者人形、雛人形などが飾られます。

お仮屋も近年の交通事情では、子供達の入る小屋を作ることは許されなくなったので、道祖神塔を覆う程度のごく簡素なものとなりました。したがって大きな小屋は、海岸の砂浜や公園等。他の場所に作られるようになりました。

団子（ダンゴ）

第二次大戦中及び終戦後は食糧難であり、その後しばらくして新生活運動が盛んになった。その時期にささやかにになった道祖神の“ダンゴ”飾りも、近年どんど焼きが盛んに行なわれるようになって、また各地でにぎやかなものが見られるようになりました。

正月十四日の道祖神田子は、普通十三日の午後（地域によって十四日午前）に作られます。米を石臼で挽いた粉を湯でこね、好きな形にこねたものをふかして（蒸す）団子が出来上る。団子の形は各家庭でそれぞれ違うが、小田原地方では、宝舟、小判、マユ玉（中程をくびらせて蚕のマユに似せたもの）、サトイモ、丸団子（直径二～三センチの丸い団子）などですが、近年、各家庭では工夫をこらして子供の喜ぶ色々なものを作っているようです。色は、白、赤、緑の三色が基本ですが、最近は様々なもので楽しまれております。

さて、作られた団子は、山つき（山岳地帯や山麓地域）ではカシ、クヌギ、コナラ、豊川地域などの平野部ではヤナギなどにならし、さらに色どりにみかんを突き刺したものを石臼に刺すか、薪を根綿にして神棚の前に飾られます。

また、小枝に刺した団子を作って、家内の大神宮様、恵比寿様、荒神様や、道祖神、氏神様にも供える。さらに、家族が“どんど焼”に持って行く分も別に作る。今でも団子のお飾りを行う家庭もあります。

どんど焼き

他の地域ではセートバレー、サイトバライ、ドンドン焼き、ダンゴ焼きなどとも呼ばれています。

暮れの二十五日～六日頃から道祖神さんの前で、火をたき、太鼓をたたくことによって始まった道祖神祭りも、この日が楽日となります。

この日、お仮屋は壊され、暮のすす払いのすす竹や、神棚、だるまなどがたくさん集められていた道祖神も、子供達が学校から帰る頃には、世話人の手によって他の場所に移してきれいにされ、どんど焼きを待っています。

本来、道祖神祭りにおいては、子供達が主導権を持ち、子供達は一つの組織の中でこれを行ないました。頭領は「餓鬼大将」（がきだいしょう）と呼ばれ、この祭りにおける最高位にあって、その権威は絶対的なものでした。餓鬼大将は戦前では高等科二年、戦後になって中学二年の、智力、腕力が優れ、その上太鼓の上手な者が選ばれる。以下“尋常科一年（小学校一年）までが加わりました。

どんど焼きをする場所は、昔は道祖神の前や道祖神が置かれている付近の刈りいれの終わった田んぼなどで行われましたが、現在では各地域によってそれぞれ異なります。

浜方では海浜を利用し、平野では交通事情や環境の事情、防火上から、付近の空地や公園、神社境内等で行なわれるようになりました。

高く積み上げられたお仮屋、正月飾りなどに、火が付けられると、集まった人々は竹や棒の先にキナリダンゴを付けて焼きます。このダンゴを食べると一年中風邪をひかないといわれ、皆頬を真赤にして一生懸命になってダンゴを焼くわけです。

また、正月の書初めを、この日どんど焼きで燃やし、書初めが火の勢いで高く燃え上ると、手が上るといわれ、上手になることを意味しているそうです。

なお、近年は子供達の学校の関係で、一月十四日近辺の土日に行なう所が、かなり多く見られるようになりました。

この後、夜にかけて各地域で山車（屋台）が出され、鉦、太鼓を打ちならし、夜遅くまで講中を引き歩きました。この間、世話人達は、煮しめ、又タなど色々なごちそうや、各種のおにぎりを作って子供達にサービスをしていました。幕から始まった子供達の道祖神祭りも、一月十四日の夜で終り、一月十五日は子供達の道祖神における「残払い」の日です。「悪魔払い」等で得た金や、世話人からいただいたお金を決算するわけです。菓子や学用品を買いこれを配分するのですが、すべて餓鬼大将の権限で行われます。

配分は、年の順に差をつけるが、期間中特に出席率の良かった者や、太鼓の上手な者には、餓鬼大将は特に多く配分することもあったそうです。

しかし、現在は、自治会や、子供会、道祖神の世話をしている世話人等の地域の大人により主催され、このようなことはなくなりました。

昭和 10 年ごろの飯泉地区の道祖神祭りやどんど焼きの様子を、元飯泉 2 区自治会長の山口勇夫さんが当時の様子を回想した貴重な文書がありましたのでご紹介させていただきます。

道祖神とどんど焼きについて（道祖神思考）

飯泉第 2 区自治会長 山口勇夫

日本の国土では、人の定住しているところに宗教に関する数多くの石造彫刻を見ることができます。地蔵菩薩をはじめ、聖如意輪、馬頭等の観世音菩薩像、不動明王、庚申、道祖神、石尊権現、山之神、蚕神等まだまだ数えきれないほどです。

風雨にさらされて苔蒸し、なお耐えて立つ石神・石仏を路傍で発見するとき、いいしれぬ親しみをこれらの塔碑に感じるものです。その大概は、江戸時代の道立に係るものです。

この時代の民間信仰の対象として広くこれらの神仏に祈願を込めたものであることが想像できます。特に庚申、道祖神、地蔵信仰は直接庶民的性格の強いものでありました。戦後は民間信仰に対する人々の関心が薄らぎたしたのか実状です。各種の祭りや、講の行軍なども敗戦を境に止めてしまったという所が多いようです。こうした民俗の変貌を背景にして、宅地あるいは道路の新設拡張などが国土のすみすみまで及んで行くので、路傍の立石の亡失や損傷もやむを得ないことでありますが、それだけに今のうちになんとか記録を残しておきたい気持ちです。庚申、道祖神に祈りを捧げる人々は、その祈願の内容は極めて広範囲にわたり、五穀豊穡をはじめ養蚕の村では養蚕の当たりを願い、その土地特有の物産の豊作を祈り、その他縁結び、産育、厄除け、虫除けなど家内安全に関すること等々で、子供等は、習字や裁縫の上達を願掛けるといった風に実に多彩です。特に、道祖神は子供と親しい神であることも特色の一つであり、今日でも小正月（1月14・15日）の「どんど焼き」の行事は、地方によっては子供を主体として盛んに行われているようです。

相州秦野、足柄上郡、足柄下郡（現小田原市）の両系地域では毎年暮れのすす払いに 2 本の青竹を葉のついたまま切り束ねて大掃除の道具としているが、使命を果たした、すす払い竹は神棚に祭った締め縄、古いお札、張子のダルマ、大黒様等を持ち寄ってどんど小屋と一緒に燃やし、今までの汚れ・災厄を焼き払ってしまうという冬の夜の祭典となっています。そして夜空に燃えあがる火焰をとりまき、太鼓を叩いたり団子を焼いて食べるのもまた子供達の楽しみであります。地方によってこの行事は異なっているので、ここでは飯泉の昔の行事を書いて見ます。

○昭和 10 年、11 年当時の道祖神の名称と氏子数（北から南へ）

1	田中	4 戸
2	大北	7 戸
3	中北	7 戸
4	北	5 戸
5	両毛	9 戸
6	辻	12 戸
7	（裏門	5 戸）
8	表門	37 戸
9	馬場	16 戸
10	（下河原	3 戸）

合計 10 箇所 105 戸

※この時代の飯泉の戸数増加はほとんどなし。

昭和 10 年～11 年、私が「餓鬼大将」の時代、当時小学校は 1 年生から 6 年生までが義務教育でありましたが、すぐに高等科 1、2 年をあわせて 8 ヶ年になりました。私が 2 ヶ年餓鬼大将をやったのは、1 年上の上級生がいなかったためです。

道祖神の氏子には 2 名 1 組の世話人がいて、この世話人は輪番制であって子供等の一切の世話をすることになっていました。

1 月 5 日、子供等は餓鬼大将の指示に従い、どんど小屋を作るべく地面に丸太を立てる穴を掘りました。スコップや突鍬や先の尖った鉄棒を利用して 50cm 以上の穴を掘ります。この穴掘作業は子供等にとっては大変な仕事でした。私等の道祖神の氏子数は、村 1 番多く 37 世帯でした。したがって、どんど小屋も大きく 6m×6m 程であるから 1.5m に 1 本の柱を立てると 10 ヶの穴を掘るので、午前中かかってしまいました。イロリは 1m×1.5m でまわりは石で出来ているので、あとは中の土だけを掘りたせば完成です。こうして 5 日の仕事が終わると 7 日の日の小屋を作る日が楽しみでした。

1 月 7 日朝 8 時、世話人の指示により、1 世帯 1 名の割合で小屋を作るべく作業に出ました。5 日に掘った穴に各家から借りてきた丸太が立てられ、これを柱に柱と柱の横に丸太が組まれると小屋の骨組みが出来上がり、屋根にはトタン板 30 枚位が並べられました。廻りは名家から集められた藁が竹に組まれ、これをハメとして取り付けられ、入口は 2 枚のむしろをつるして風が入らないようにしました。主柱にしっかりと結ばれた。オンベ竹の飾りは、縄と竹とを使った大きな弓と紅白の◇飾り、ダルマをつるして、こうしてどんど小屋が午前中で出来あがりしました。学校がひけて帰ると、餓鬼大将は下級生を使って、夜に燃やす薪を各家から集めさせるので、かならず餓鬼大将 1 名はつき添っていました。

夕陽が落ちて、イロリに火が入る。天井からつるされた大きな鉄瓶には湯が沸く。

柱と柱に結ばれた針金には提灯がつるされてロウソクに火が灯される。

大太鼓、小太鼓、すり鐘と子供等の心は一つになって叩いている。

やがて夕食を終わった人々が御馳走を持って集まってきます。白菜のオシッコが上手に出来たとか、あるいは駄菓子とか、これらのものはすべて餓鬼大将の手を通じて道祖神におそなえしてから皆に分配されます。そして熱いお茶をすすりながら大人等は世間話に花を咲かせるのである。こうして7日から13日まで道祖神のお祭りに子供等は夜の更けるのを忘れて楽しんでいるが、やがて明日の勉強にさしつかえない程度に切り上げ、餓鬼大将は火の始末だけは何べんも確認して帰ります。

そして、道祖神祭りの最後1月14日、午後1時再び氏子は、全員集合して小屋を解体し、借りてきたトタン板や丸太を返却する。うず高く積まれた青竹、藁、ダルマ・神棚、×滝、お札、門松。そして一方では、二台車と称して大八車の人が入って引く方を合わせて2台つなぎ合わせ、これに飾り付けをして紅白の幕を張りめぐらし、太鼓を乗せ準備が出来あがる頃、いよいよどんど焼きの火が世話人の手によってつけられます。子供等は、家へとって返し「書き初め」を持ってきて燃やし、その灰が高く舞いあがると書き方が上達すると喜び勇んだものでした。真っ赤な焰が一層祭りを盛りたててくれます。やがて、その焰が夜空に浮かび二台車の出動となります。太鼓の音が遠く近く村中をねり歩き、村中が湧き立つのです。男も女もお年寄りから子供まで飯泉10箇所の道祖神中7箇所を回って7とこ参りといって手に線香を持ってお参りするのです。その行き先々の道祖神でお茶やお菓子、お団子、おもちゃ等をもって食べたりしたが、大人等にはもっぱらお酒がふるまわれ、夜の更けるのも忘れませんでした。

一方、二台車は夜10時まで村中を廻り終わって世話人の家に集まってあたたかいお雑煮やおしるこ、甘酒、お菓子を食べながら夜の更けるのも忘れて楽しいお正月の最後を終わるのです。これが私の小学校当時の思い出です。

それから間もなく戦争という不幸な時代が長く続きました。そして敗戦、戦後という時代が過ぎ、世の中が平和になって復興したものの、昭和40年青少年不良化問題（夜遊び）や火災予防の両面から小・中学校通達により全面禁止となってしまいました。

昭和59年12月初めに、「どんど焼きを」という住民の声に耳を傾け、考えました。飯泉2区が発足したのは昭和59年4月であり、禁止となった時代を知る人も少なく、地区住民の為にもと、どんど焼きを再開した次第です。飯泉2区には幸いにして水野家3軒でお祭りしていた道祖神があり、これを地区住民と一緒にお祭りをしていきたいと考え、昭和60年1月14日に第1回どんど焼きを実施しました。

第1回どんど焼き（昭和60年1月14日）

主催 水野3軒 水野治夫 水野正光 水野 宏

実行委員 夏目 武 富沢竹三郎 門松富士松 田之尻 繁 門松英男

山口勇夫 石川保男

○道祖神再興される

昔から飯泉地区の道祖神のお祭りは1月7日から1月14日まででした。その最後の14日
どんど小屋と一緒に使命を果たした神棚に祭ったお札やゆ縄、ダルマ、門松等を燃やして
今までの汚れや災厄を焼き払うという冬の祭典でありました。その道祖神下河原に鎮座さ
れて幾星霜、風化甚だしく路傍の石と化したる如くに今のうちに何らかの形で後世に伝え
ていかなければという念頭から、水野ご三家の承認のもと高橋石材の高徳により立派な道
祖神が再興されました。

○新道祖神建立への道のり

1) 平成3年11月14日

高橋石材 社長 高橋 明
自治会三役 会長 山口勇夫
副会長 石川保男 神谷昭寿 水野 宏

下河原の道祖神が鎮座されて幾星霜、風化が甚だしく路傍の石と化してしまったのを
前にして、高橋社長いわく「寄贈します。真鶴の小松石を使用して立派なものを造りま
す。」と断言してくれた。

2) 平成4年1月7日

現道祖神を少し動かし、新道祖神を建立すべく地鎮祭を行った。

高橋明社長、氏子代表水野正光、自治会長山口勇夫、石川保男、神谷昭寿、水野宏

3) 平成4年1月8日

新道祖神建立される。

高橋明社長、職員1名、自治会長山口勇夫、副会長石川保男、神谷昭寿、水野宏、
真野意志、氏子水野正光

4) 平成4年1月14日（第8回どんど焼き）

どんど焼きとともに入魂式が行われる。

式次第

- 1 入魂式 1月14日 13時 牧野宮司
 - 2 感謝状授与 高橋石材社長
 - 3 どんど焼き点火 14時
 - 4 奉納太鼓 小田原はやし 16時
 - 5 消火 18時
- お賽銭箱 寄贈 田中工務店 田中三郎

桑原自治会だよりでの道祖神どんど焼きの様子も紹介させていただきます。

回 覧 桑原自治会便り **—道祖神・どんど焼—**

・1月12日に桑原地区内の7ヵ所の道祖神で恒例の「どんど焼」が行われました。
 ・穏やかな天候のもと、地域の皆様が正月行事を楽しんだ様子と7ヵ所の道祖神について紹介します。
 散歩の折に、立ち寄ってみてください。

① 奥津の道祖神



③ 山室の道祖神



④ 西の道祖神



⑤ 東の道祖神



⑦ 12組の道祖神



② 村山の道祖神



⑥ 袋丁の道祖神



<道祖神の場所>



※道祖神：村境に安置され、通行人を守り、邪神が入るのをさえぎり止める道路神。

・今年も1月13日に桑原地区内にある7カ所の道祖神で一齐に「どんど焼き」が行われました。
 大変暖かく穏やかな天候で、大人も子供も正月行事を楽しみました。
 ・道祖神（さいのかみ、さえのかみ）・・・ 通行人を守り、邪神が入り来るのをさえぎり止める道路神。
 ・どんど焼き・・・ 小正月に村境などの道祖神を祀った場所で、門松、竹、しめ縄などを集めて焼く火祭り。
 手作りの団子を炎にかざして焼いて食べ、今年の無病息災を祈る。

●あちこちで大勢の皆様が正月行事を楽しみました。

□東の道祖神



□袋丁の道祖神(三島神社横)



□山室の道祖神



□奥津の道祖神



・消防団が火の用心のために見回りました

□村山の道祖神



・牧島かれん議員も仲間に加わりました。

□西の道祖神



・当番の方が準備に当たりました

□12組の道祖神



○子供たちは太鼓をたたいて盛り上げました。



○たくさんの団子が焼けました。今年も風邪をひかないよ！



資料編

豊川地域の道祖神の概ねの所在地と画像、地図を掲載します。
道祖神は、地域の道路事情や様々な事情で、ごくまれに場所が移動される事もあります。
皆さんも、道祖神探しをしてみたり、道祖神マップをつくったりして道祖神の事を調べてみてください。そして、新しい発見があった時には教えて下さい。

「豊川地域の道祖神の所在地」

桑原	上の道祖神	桑原392付近
桑原	中の西の道祖神	桑原399付近
桑原	中の東の道祖神	桑原421付近
桑原	下の東の道祖神	桑原453付近
桑原	下の西の道祖神	桑原468付近
桑原	大下の道祖神	桑原489付近
桑原	12組の道祖神	桑原847付近
成田	北窪の道祖神	成田757付近
成田	西成田 108	成田700付近
成田	上庭の道祖神	成田282付近
成田	中庭の道祖神	成田225付近
成田	成田の道祖神	成田210付近
成田	下庭の道祖神	成田131付近
飯泉	田中前の道祖神	飯泉416付近
飯泉	北の道祖神	飯泉519付近
飯泉	中北の道祖神	飯泉600付近
飯泉	飯泉 116	飯泉707付近
飯泉	飯泉 117	飯泉709付近
飯泉	表門の道祖神	飯泉1124付近
飯泉	馬場の道祖神	飯泉791付近
飯泉	両毛の道祖神	飯泉732付近

道祖神マップ

桑原



成田・飯泉



「豊川の道祖神 画像集」

桑原地区



桑原 中の西



桑原 上



桑原 中の東



桑原 大下



桑原 下の東



桑原 下の西



桑原 12組の道祖神

成田（西成田・東成田）地区の道祖神



西成田 108



西成田 北庭



東成田 上庭



東成田 中庭



東成田 下庭

飯泉地区の道祖神



飯泉 北



飯泉 田中前



飯泉 中北



飯泉 116



飯泉 表門



飯泉 117



飯泉 両毛



飯泉 馬場

[参考文献]

小田原市文化財調査報告書 第十八集 小田原の道祖神

「豊川の道祖神・どんど焼き」 初版

発行 : 平成 29 年 12 月 31 日

発行元 : 豊川地域コミュニティ運営協議会 第三分科会

編集 : 岩崎洋一 豊川地域コミュニティ運営協議会、第三分科会長

印刷 : 有限会社 トキワテック